

①冬季観光の充実・強化

	評価項目	指摘事項
1	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 焼山地区等の宿泊施設の経営・インバウンド受け入れ機会確保による経済効果・通年雇用による人材確保等において、重要な事業。</li> <li>◆ 事業は予算の範囲内で妥当なものとなっている。</li> <li>◆ 具体的な誘客システム（ツアー等）の確立は評価できる。</li> <li>◆ スノーパークはPRを活発に行うことにより、集客が見込める。</li> <li>◆ 当面は行政主体が市民ニーズに適合している。</li> <li>◆ 冬期間の十分な施設の確保ができれば、年間を通しての事業として成り立つのでは。</li> <li>◆ 今後設立されるDMOと連携を強化して進めてほしい。</li> <li>◆ テーマとしては重点的に取り組むべき事業であるが、本来は行政が主導でなく、観光協会が取り組むべき。</li> </ul>
2	有効性	<p>&lt;全体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 継続することで年々観光客が増加すると思う。</li> <li>◆ 将来に向け有効性は高い。</li> <li>◆ 冬季における宿泊者数の増加が図られ、成果が得られており、とても良い取組。</li> <li>◆ 観光資源としては面白いがPR不足のため、有効と言える数値ではない。</li> <li>◆ 市中心部との連携をどうするか考えるべき。</li> <li>◆ 外国人旅行者の誘客増に向けた取組強化を図るべき。</li> </ul> <p>&lt;奥入瀬溪流氷瀑ツアー&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ アピール度が高い。</li> <li>◆ 新しい取組で話題性があり有効。更なる工夫・魅力の創出が必要。</li> </ul> <p>&lt;スキー場スノーパーク整備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 現存する資材の有効活用に繋がる。</li> <li>◆ 知名度がいまいち。</li> </ul>
3	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 地元の宿泊施設等の連携は効率性が高い。</li> <li>◆ 続けることで効率性を高めることができる。</li> <li>◆ PR不足により効率性が不十分。</li> <li>◆ 他の冬季観光コンテンツ（十和田湖冬物語など）との連携を図り、互いの事業の相乗効果による集客効果を図るべき。</li> <li>◆ DMOに移管すべき。</li> </ul>
4	公平性	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 奥入瀬地区だけでなく市街地エリアの集客効果も期待され、公平性が確保できる。</li> <li>◆ PRを拡大することで、公平性の確保ができる。</li> <li>◆ スノーパーク整備は、費用対効果を見直す必要あり。</li> </ul>
5	事業の方向性	<p>さらに重点化を図る（8人）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 十和田湖・焼山ともに市外からの訪問者が増えている。</li> <li>◆ 利用者数を拡大し、継続・定着を望む。</li> <li>◆ 更なる集客のために、冬物語やアーツ・トワダウインターイルミネーションなどと連動しながら取り組み、本市の冬季観光を一体的に周知する</li> </ul>

		<p>とともに、誰でも来訪できるよう利便性のある交通体系の整備が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 『安定した雇用創出』の観点から、労働者の立場としても継続を求める。ただし、長期的には「②DMOによる観光地域づくり」にも関連するため、いずれはDMO事業に包含されるものとする。</li> <li>◆ 『冬の十和田は楽しい』というイメージづくりにより、宿泊観光客の増加が見込まれる。</li> <li>◆ 冬期間の経済活動の活性化は、積雪寒冷地共通の課題であり、その対策として観光事業が有力手段であることに変わりなく、事業拡大による効果が期待できる。</li> <li>◆ 民間資本で手の届かない、観光客向けのハード整備に努めてほしい。</li> <li>◆ 冬季観光は伸び代がある。地元にお金が落ちるような仕組みを構築してほしい。</li> </ul> <p><b>現状のまま継続（2人）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 資源の魅力を広く周知する広報活動が必要。</li> <li>◆ 宣伝次第で観光客の誘客につながる。</li> </ul> <p><b>内容を改善して継続（2人）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 冬の奥入瀬、十和田湖を含めた魅力の発信が必要。イベント的なものも企画するとよい。</li> <li>◆ 氷瀑ライトアップの必要性と活用の検討をすべき。</li> </ul>
6	その他 提言等	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 事業内容の認知度が低いため、マスコミやインターネットの活用を強化すべき。</li> <li>◆ 焼山開発のためのビッグなプロジェクトを創設すべき。</li> <li>◆ 十和田市を核とした交通手段を拡大すべき。</li> <li>◆ 市のホームページ内に冬季観光を常設掲示し、交通情報やモデルコースなども含めた周知が有効と考える。</li> <li>◆ 交通利便性に大きな問題があるため、新幹線や飛行機の発着に合わせたバス時刻改正や青森線全線の駅経由、夜ぷらす（タクシー）の予約を不要にするなど、対応を検討すべき。</li> <li>◆ 既存の資源を活用する観光施策は多くの企業、自治体が様々な手法で取り入れているものと思う。さらにイノベティブなアイデアを加えることで他にない付加価値を創造するためにも、今以上にネットワークを幅広く活用し事業を拡充してほしい。</li> <li>◆ 国立公園内の事業については、「保護」と「利用」のバランスを考え、特に自然環境に配慮し、進めてほしい。</li> </ul>